



発行所  
日本聖公会 東北教区  
仙台市青葉区国分町2-13-15  
TEL 022-223-2349  
FAX 022-223-2387  
URL <https://nssk-tohoku.com/>

東日本大震災メッセージ  
「がれきを拾う」

司祭 テモテ 遠藤 洋介

「ごく小さな事に忠実な者は、大きな事にも忠実である。ごく小さな事に不忠実な者は、大きな事にも不忠実である。」  
(ルカ16:10)

阪神淡路大震災から28年が経ち、まもなく東日本大震災からは12年、熊本地震からは7年、西日本豪雨からは5年がそれぞれ経過しようとしています。それ以外にも日本全国で規模や被害の大きさはそれぞれですが、自然災害が起きています。

私は、阪神淡路大震災も東日本大震災も被災はおるか、ボランティアの経験もありませんでした。私のボランティアの初めては熊本地震の時でした。当時は熊本城が被害に遭ったことなどがよく報道されていましたが、主な被災地域は益城町という小さな集落でした。梅雨時期ということもあり、大雨の中、倒壊した自宅横に張ったテントの中で

生活している方などにお声をかけをして手作りのおかずを持つて訪問しました。晴れの日には肌を刺すような日差しの中、ブロック塀を撤去し、土嚢袋に詰める作業や被災し



たお寺のがれきを運ぶ作業をさせていただきました。たった3週間の短い期間でのボランティアでしたが、教会の中心だけでは出来ない学びの多い経験でした。

その2年後、山陽を中心とした西日本豪雨災害が発生し、私はボランティアセンターのスタッフに任命されました。社会福祉協議会の指示のもと、土砂のかき出しやがれきの撤

去作業をさせていただきました。

ボランティアには色々な思いを持つて皆さん来られます。熊本地震では、熊本城の修復に関わると意気込んで来られた方もよくおられました。西日本豪雨では、ニュースで連日報道されていた被害の大きな地域に行けると思っただけで来た方もおられました。社会福祉協議会を通さずに別の被災地域に行こうとされる方もおられました。被災地で自分の行なっているNPO法人の活動を宣伝する方もおられました。トラックや重機を借りて作業をしたいという方や、避難所に行つて被災して困っている人と交流したいと言われる方もおられました。ボランティア精神にあふれた熱意ある善意は実に多種多様で、本当に色々な思いを抱えてボランティアに来られているんだと感じました。

しかし、実際にボランティアに出来ることは限られています。土砂崩れが起きたばかりの危険な場所へは行けませんし、全壊しそうな建物には近づけません。道具も作業時

間も限られ、細かく地道で疲弊する作業が連日続きます。重機や大きな道具を使った派手な作業は行政などから委託された業者の方がされます。避難所などへは医療従事者の方々が行かれます。私たちが出来ることは、お祈りとひたすらがれきを拾う手作業などだけです。それに対して、不満を持つ方もやはりおられたことを記憶しています。

しかし、のがれき一つを拾うことからボランティアは始まります。足元に落ちているがれきに目を向けられず、大きな目標や理想のボランティア像ばかりを指しても、被災者の本当の気持ちには寄り添えないのです。

起こつてほしくはないですが、おそろしくいつか災害は起こるかと思えます。その時に私がどのような立場にいるのかはわかりません。しかし、目立たなくていい。大きなことができなくていい。誰にも知られなくていい。静かな祈りと共に足元の小さながれきを拾うことを大切にできたらと思います。

(八戸聖ルカ教会副牧師)

## 執行機関拡大合同会議報告 「協同」を促進させよう！

総主事 司祭 ヨハネ 八木 正言

去る1月14日、今年も「執行機関拡大合同会議」が行われました。「執行機関拡大合同会議」は、年の初めに主教をはじめとする現役教役者と、総務、教育、宣教、財政の各

育連盟」会長、「教区婦人会」会長が一同に会し、その年の教区の宣教指針や具体的な課題について分かち合う機会です。新主教を迎えることにな

る2023年の同会議は、「キリストの教会としての協働実践の意味」を基調に、そこから派生する3つの話題、「コラボレーション推進グループからの発題」「各教会法人格の解消と教区との合併について」「北海道教区との協働実践」について考える機会となりました。また、北海道教区との宣教協働をより実践的に進めていくための具体的な一歩として、大町信也司祭（北海道教区常置委員長・宣教協働委員）をお迎えし、会議に加わっていただきました。

まず基調プレゼンテーションにおいては主事会議より、1. 聖書に見る「使徒」の働きと意味について、その目指すところ、任務の本質について、  
2. 同じ「使徒職」にある聖職と信徒の関わりについて、  
3. 聖職の減少を信徒が補うのが「協働」ではないこと、  
4. 教会本来の姿に戻るための「協働」について  
これらの4つについての発題がありました。そして信徒、聖職の機能の違いはありつつも、愛と憐みに軸足を置きつ

つ、共にキリストの招きに応じていきましよう！との呼びかけがありました。  
続いて「各教会法人格の解消と教区への合併について」の発題があり、本課題は、1979年以降、歴代の教区主教から度々勧められてきたものであり、宗教法入立であった教区内の多くの幼稚園が学校法人化に至った今、あらためて取り組みを進め、東北教区が一つの宣教共同体であるための自覚をもつ必要があることを共有しました。  
また「コラボレーション推進グループ」からは、東北教区の宣教活動が活き活きと展開するためにより一層コラボレーションを推進していくことが必要であること、同グループは教区内のさまざまな連携一切を一手に引き受けるためにあるのではなく、言わばこれを推進するための促進役としてあること、コラボレーションを進めるにあたって大切なことは、他者に言われてやらされるのではなく、自らワクワクしながら一歩前に進む勇気を持つ感覚を意識

することにあること、ゆえに何か大きなことをするのはなく、今までの教会生活にほんのひと添え、ひと工夫をすれば、宣教に資するワクワクの分かち合いが拡がり、一人一人の喜びの源泉が様々なところで湧き出でて合流し、大きな流れになっていくことが期待できるといった展望の説明がありました。  
そして「北海道教区との宣教協働実践に向けて」の発題においては、東日本宣教協働区は現在、第1段階として、北海道教区・東北教区、そして北関東教区・東京教区の2グループで、福音宣教の活性化を目的とする教区再編・宣教協働を推進していること、第2段階として、東日本宣教協働区の教区再編・宣教協働について取り組んでいく現状にあることがまず報告されました。さらに昨秋の教区会において東北・北海道両教区は、同じ「宣教協働ならびに教区再編へ向けて動き出すために、『東北教区・北海道教区宣教協働タスクフォース』を設置する。」との議案を決議し、

より実践的な活動が始まっていく状況にあるとの報告がありました。両教区は今後、それぞれの現状の課題を受けとめつつ、福音宣教の活性化のためにそれを「新しい風」として受けとめ合い、新たな歩みのための好機としていくこと、そのような動きの中でキリストの交わりとして新たな出会い、使命を果たしていくことが必要であるとの発題がありました。  
今回の会議で分かち合われたことが、2023年の教区の様々な働きに反映され、新しい一歩を踏み出すことができると期待しています。



**各教区人権担当者会に  
参加して**  
東北教区人権担当  
司祭ヤコブ林 国秀

今年も管区人権担当の主催により12月8日～9日の2日間、「各教区人権担当者会」が開催されました。今回は、横浜教区山手聖公会に集合し、管区人権担当、関係者と合わせて17名の参加でしたが、新型コロナウイルス感染症のまん延の影響で、実に3年ぶりの顔を合わせての開催となりました。

1日目は各教区からの報告と課題の共有、情報交換、そして2日目の「日本の三大ドヤ街・寿町」での炊き出しボランティアへの参加に備え、日本基督教団神奈川教区寿地区センター<sup>みきわ</sup>・主事・汀なるみ先生から事前オリエンテーションを受けました。

いよいよ2日目、朝8時に寿町の中にある「寿公園」に集合し、炊き出し作業ボランティア活動に参加しました。寿公園は、山手聖公会から山を下り、途中山手の邸宅街を通り、おしゃれブランドの集



まる「元町」を抜けて、京浜東北・根岸線のガードをくぐれば歩いて20分で着きます。日本の格差社会をわずか20分で体感する道程です。炊き出しには、近隣のミッシヨンスクールの中高生、「婦人友の会」のグループ、一般のボランティアの方々和私たち聖公会のメンバー合わせておよそ50名が集まっていました。昼食を提供するために約800食分を準備します。相当な数の寸胴鍋やコンロ、まな板包丁が準備され、一斉に食事作りに取り掛かります。食事を

受け取りにきた方々へボランティアのレギュラーメンバーの方々は優しく声を掛け、視線を下げ、安否を問い、親しく「またね」と挨拶を交わさ

され、孤独に生きざるを得なくなつた人々」のために奉仕をする方々はたいへん活き活きと、輝いておられ、その姿に感動すら覚えました。主イエスも「小さくされた人々」の側に

立って、仕える道を歩まれ、慈しみに溢れたみ手を広げ、人々を愛されました。寿町でボランティアに励む皆さんの働きもその主イエスにならうものです。私たちが自分を愛するように他者を愛するときこそ、活き活きと歩めることを、寿町のボランティア活動のなかに見出すことが出来ました。主に感謝。



### 公 示

救主降生 2023年1月10日  
日本聖公会首座主教  
主教 ルカ 武藤 謙一<sup>印</sup>

神のおゆるしがあれば、  
主教 被選者 司祭 フランシス 長谷川清純 師の  
主教按手式および日本聖公会東北教区主教就任式  
を下記のとおり執行いたします。主にあるみなさま、  
ことに日本聖公会に属する信徒・聖職の代祷を求めます。

記

日 時：2023年4月22日(土) 午前10:00～  
説教者：主教マリア・グレイス笹森田鶴師(北海道教区主教)  
場 所：日本聖公会東北教区主教座聖堂(仙台基督教会)  
〒980-0803 仙台市青葉区国分町2-13-15  
※祭色は白を用います。

以 上

### 東日本大震災12周年 記念の祈り・講演会

2023年3月11日(土)

記念の祈り 14時15分～15時

会場：青森聖アンデレ教会、八戸聖ルカ教会、  
能代キリスト教会、盛岡聖公会、  
仙台基督教会、仙台聖フランシス教会、  
米沢聖ヨハネ教会、小名浜聖テモテ教会、  
郡山聖ペテロ聖パウロ教会

講演会 15時10分～16時40分

「主に喜ばれる生き方を吟味する  
～福島からのメッセージ」

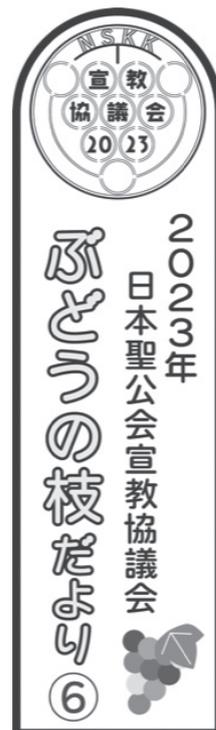
講師：片岡輝美氏

会津若松市在住、日本基督教団若松栄町教会員。  
「会津放射能情報センター」代表。「子ども脱被  
ばく裁判の会」共同代表。「これ以上海を汚す  
な！市民会議」メンバー。「宗教者が核燃料サイ  
クル事業廃止を求める裁判」原告。

※礼拝式文は東北教区ホームページからダウンロード  
できます。

※主教座聖堂 仙台基督教会での記念の祈りと講演会は、  
東北教区You Tubeチャンネルにて配信されます。(8面  
QRコードをご利用ください)





今年の11月10日(金)〜13日

(月)に開かれる宣教協議会。現在、プログラムを固め精査する作業が進められています。物語を大事にしたプログラム、こどもたち、自分らしく生きることや声をあげることが困難な人と共に働き働く方々を招いてのパネルトークとグループディスカッション、宣教協働区へ向けて等。準備はこれから益々深まっています。

メッセージ〈要約版〉

### 「宣教協議会への招き」

実行委員長 主教 磯 晴久

みなさんこんにちは。この宣教協議会は前回2012年の宣教協議会から10年後に実りを持ち寄ってもう1回協議会をしましょうという約束を受けて開かれます。実りを持ち寄るだけでなく、その後、新型コロナウイルス、世界各

地への争い、環境問題や災害で、多くの人が苦しむ、社会に生きづらさを感じている人がたくさんいます。教会も課題を抱えております。私たちは岐路に立っていて、これからの道をどう歩んでいこうかと悩んでいるところがあると思います。私たちは今、希望を持ってこの宣教協議会を目指しています。その旅はこれからのための旅です。

先日、中村哲医師の本を読んでいた。彼にこんなことがありました。彼は途中で気づくのです。この人たちに必要なのは水とパンだと。それから彼は灌漑施設を作り、土地を耕し、地域の人と一緒に歩みました。水とパン。実はとてもシンプルなことでした。

私たちは複雑な社会の中に生きていて、どうしたらいいかわからない状況もあります。本当に私たちが今行わなければならない事は何かだろうか、関わりなければならぬ事は何かだろうかというのを、皆で知恵と力と想像力を出し合い、意見を出し合って新しい宣教のビジョンを発見する、そのような協議会になったらと心から願っております。その根底には、主イエスが私たちのところに来てくださった、隣人愛の大切さを伝えるために私たちのところに来てくださった、ということをお忘れたいと思います。そこを見つめながら、どうぞいろいろな形でこの宣教協議会にご参加下さいますようお願いいたします。

\*全体の内容は動画配信してあります(2023日本聖公会宣教協議会ブログ)と検索、またはQRコード)



### 「各教区正義と平和担当者の集い」報告

司祭 パウロ 渡部 拓

1月10日(火)から11日(水)にかけて、管区事務所とWe bの二つを会場として、「各教区正義と平和担当者の集い」が開催されました。

会議の中では、一昨年から引き続き新型コロナウイルス感染症の影響で、各教区思うように動いていないという現状が報告されました。

しかしそのような状況の中でも、印象に残ったのは、各教区がそれぞれ、出来る範囲での取り組み、殊に地域性の強い事柄について、工夫をしながら取り組み続けているということでした。それは広島市の平和礼拝や、北海道のアイヌ関連のこと、沖縄の基地問題等々、これだけは外せないということに集中して取り組んでいるといったことです。

私たちの教区も、震災や原発といったことを筆頭に、どんな時にでも取り組むべき課題があると思います。そのことを心に留めながら、祈りと働きを、続けたいと思います。

### 東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

◆1月の地域活動「水曜喫茶」は18日(水)開催、参加者は7名(内スタッフ3名)でした。今回も田園調布カトリック教会と元メンバーから新年の挨拶を綴ったカードが添えられた差し入れが届きました。感謝。「お買い物支援バス」は12日、19日の2回で延べ4名の利用でした。26日は大雪のため中止にしました。

◆3月11日礼拝後の15時10分〜16時40分「主に喜ばれる生き方を吟味する」福島からのメッセージ」と題して、片岡輝美さんの講演があります。会場は主教座聖堂 仙台基督教会でライブ配信されます。片岡さんは東京電力福島第一原子力発電所爆発事故後、放射能により人びとのいのちと人権、生活が脅かされている事態に抗して声をあげ行動しています。福音に生かされる日々の活動をされている片岡さんから福島の実況を伺い、キリスト信仰者としての私たちの有り様を共に考えたいと思います。

(司祭 長谷川 清純)

# 公 示

救主降生2023年1月1日  
日本聖公会東北教区主教  
主教 ヨハネ 吉田 雅人 ㊦

第107(定期)教区会の決議により、以下のように教会の合併をします。

### 記

2023年1月1日付で、山形聖ペテロ教会と新庄聖マルコ教会を合併し、新教会名を山形聖ペテロ教会とします。

2023年1月1日付で、山形聖ペテロ教会と鶴岡聖公会を合併し、新教会名を山形聖ペテロ教会とします。

2023年1月1日付で、盛岡聖公会と室根聖ナタナエル教会を合併し、新教会名を盛岡聖公会とします。

第107(定期)教区会の決議により、2023年1月1日付で、東北教区の伝道所として、室根聖ナタナエル伝道所の設立を認可します。 以上

日本聖公会東北教区新庄聖マルコ教会礼拝堂の聖別解除の祈りを下記のとおり執り行います。皆様のご臨席・ご加祷をお願いいたします。

### 記

日 時 救主降生2023年1月15日(顕現後第2主日)  
午前11時~  
場 所 日本聖公会東北教区新庄聖マルコ教会礼拝堂  
山形県新庄市城南町2-13  
司 式 主教 ヨハネ 吉田 雅人  
補 式 司祭 ステパノ 涌井 康福

日本聖公会東北教区鶴岡聖公会礼拝堂の聖別解除の祈りを下記のとおり執り行います。皆様のご臨席・ご加祷をお願いいたします。

— 記 —  
日 時 救主降生2023年1月19日  
(顕現後第2主日の週木曜日) 午前11時~  
場 所 日本聖公会東北教区鶴岡聖公会礼拝堂  
山形県鶴岡市本町3-5-30  
司 式 主教 ヨハネ 吉田 雅人 以上

下記の人事異動を発令します。

### 記

主教 ヨハネ 吉田 雅人  
2022年12月31日付 (旧) 鶴岡聖公会管理牧師の任を解く。  
2023年1月1日付 (新) 山形聖ペテロ教会礼拝協力を委嘱する。  
司祭 ステパノ 涌井 康福  
2022年12月31日付 (旧) 新庄聖マルコ教会管理牧師の任を解く。  
2023年1月1日付 (新) 山形聖ペテロ教会礼拝協力を委嘱する。  
司祭 ドミニコ 李 贊熙  
2022年12月31日付 (旧) 山形聖ペテロ教会管理牧師の任を解く。  
2023年1月1日付 (新) 山形聖ペテロ教会管理牧師に任命する。  
司祭 ステパノ 越山 哲也  
2022年12月31日付 (旧) 盛岡聖公会牧師、室根聖ナタナエル教会管理牧師の任を解く。  
2023年1月1日付 (新) 盛岡聖公会牧師に任命する。室根聖ナタナエル伝道所管理を命じる。  
主教 ヨハネ 加藤 博道  
2022年12月31日付 (旧) 山形聖ペテロ教会礼拝協力の任を解く。  
2023年1月1日付 司祭ドミニコ李贊熙のもとで、(新)山形聖ペテロ教会において礼拝協力を委嘱する。任期を2023年3月31日までとする。 以上

我が洗礼・堅信を志願し決断するまでには長い年月がかかりました。私は母がキリスト教徒であり、聖公会栄光学園聖マリア幼稚園の園長であることに敬意を表している

私は昨年の12月11日に、吉田雅人主教様ならびに長谷川清純司祭様より洗礼・堅信を受けました。式の日までは月に一度長谷川司祭様との勉強会において洗礼と堅信を受けるにあたっての学びをし、少しずつ心の準備をすることができました。勉強会で司祭様とお話をする事で不安な気持ちや和らぎ、貴重な時間をいただけたことに心から感謝しております。

## 念願の洗礼堅信を受けて 青森聖アンデレ教会 ルツ 福田 聖子



無事に式を終えられましたが、まだまだわからないことが多く不安な日々ですが、自分なりにゆつくり知識を深めて心の修養に努めてまいります。

それから高校を卒業し、大

と共に、祖母が亡くなる際に洗礼を受けたことに大きく影響されました。祖母が亡くなったのは私が中学1年生の時でした。幼い頃から母に連れられ教会へ通っていた私は、多くの信徒の方々より可愛がっていただいております。葬儀の際もたくさんの方々より支えていただきとても感謝を受けたいです。大好きだった祖母が亡くなってしまった哀しみはとても深かったのですが、教会へ来ると聖歌の美しい音色で心が癒され、司祭様の説教により神様が近くに寄り添っていただいていると感じることができました。



# シリーズ わたしの道の光

## 「御手の温もりと共に」 弘前昇天教会

ヨハネ 鎌田 尚



弘前公園の桜が散り始めた頃、札幌円山墓地に眠る祖

父母の墓参に行った。日も暮れ寒くなったので、帰りはタクシーでホテルへ。車中運転手と花見話で盛り上がったが、途中からウクライナ情勢と隣国ロシアの話に変わった途端「花見の話なんかしたら罰が当たるね」と言って会話が途切れ、とうとうそのままホテルに到着。部屋に戻ってから何か大きな荷物を忘れた気持ちで一杯だった。引き出しの中にあつた聖書を手に、昔大変お世話になった、横浜聖アンデレ教会の主教ヤコブ遠藤哲師父を思い出した。

僕の仕事が日曜だったことがあり、聖木曜日の早朝聖餐の恩寵に預かりました。自宅

から車で横浜新道を抜ける頃、朝日が正面から昇る光景は、正に主を仰ぎ見る思いを以て聖堂のドアを開きました。何

名かの方が頭だけが見え隠れし首を凭れ、静寂の中で黙禱。神の声を受け止める大切な時間でした。師父はいつも穏やかな笑顔の中に、その使命と信念を持っておられました。

時々信徒訪問に誘ってくださり、横浜YMCAの聖書勉強にも恵まれました。講師は佐古純一郎先生で、仏教とキリスト教の違いや旧約の解説もされ、殊にヨブ記がとても印象的でした。ヨブが幾多の苦難と試練を受け、神の正義を問いつける知恵の書です。

彼の小さな世界観から神は不公平と主張します。しかし神の広大で複雑な仕組みでは無限の視点に立たないと説明できないことだったからでした。そして彼自身の感情や苦痛を

神の前に曝け出し祈る姿勢を神はよしとされます。「主はサタンに言われた『それでは彼をお前の好きなようにするがよい。ただし命だけは奪うな。』(ヨブ2:6) 彼がどんな苦難にも勝利し、神への

愛と信頼がある者への契約が、すでに神の計画だったことが視えます。

毎日報じられるウクライナ情勢。核保有国で国連常任理事国が堂々と侵攻することに、世界中が正義と秩序を盾に揺れ動く今、ヨブの疑問の如く「神は正義によって世界を治めてはならない」と考えるべきでしょうか。タクシーの中での無言体験。今思うと、何と真摯な人だったでしょう。神様

をとおして祖父母の贈り物に感謝です。「一粒の砂に世界を見、一輪の野の花に天を見る。手のひらに無限をつかみ、一瞬のうちに永遠をとらえる。」英国の詩人ウイリアム・ブレイクの「無知の告知」の冒頭です。彼もまたヨブ記を深く

考慮した一人です。一粒の砂に悲しみを閉じ込め、一輪の花に癒され心の糧として魂が浄化され、そして再生できるとあります。黙想をする度に、「光の中で光を見ず、闇ありてこそ光なり」神様の御手の中にある砂が私たちだと想像しては御手の温もりと共に、神様の声が世界に届きますことを。

## 礼拝堂探検隊

礼拝堂にあるいろいろなもの、その意味を調べてみました。

(第26回 鐘)

皆さんはジャン・フランソワ・ミレーが描いた「晩鐘」という絵をご存じだと思います。

夕暮れ時の畑で働いていた夫婦が、農作業の手を止めて祈っている絵です。遠く絵の右上の方に教会か修道院の塔が見えます。恐らく夕方のアンジェラスの鐘にあわせて祈りを献げているのでしょうね。

修道院に七つの鐘を贈ったという記録があるそうです。九世紀以降、鐘は鐘楼に吊るされるようになり、修道院での使用が一般的になりました。このような鐘の歴史からもわかるように、鐘の働きは礼拝の前に鳴らして人々を礼拝に招き入れることや、修道院や教会で定時の礼拝(修道院の三時間ごとの聖務時禱)の時に鳴らすことで、地域における時計の役割を持ったのです。

礼拝堂に鐘を設置するようになったのは四〇〇年頃のノラのパウリーヌス(司教、貧しい人々に尽くした)によるものだと言われていましたが、五八五年頃トゥールのグレゴリウス司教が献げたものだそうです。

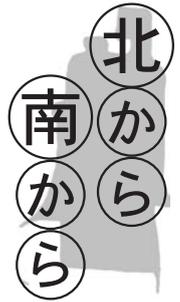
英国における最初の鐘は、六八〇年頃にイタリヤから持ち込まれ、八世紀にトルケトゥル修道院長がクロウランド修

英国における最初の鐘は、六八〇年頃にイタリヤから持ち込まれ、八世紀にトルケトゥル修道院長がクロウランド修



(鐘/弘前昇天教会)

逝去された方の年齢だけ鳴らすという教会もありました。いづれにしても心を込めて人々にイエス様の愛を知らせることが大切なのではないでしょうか。(教区主教)



### 青森聖アンテレ教会

聖マリア幼稚園の年長組の聖劇を聖堂で行い、子どもたちの演技に皆から大きな拍手をもらいました。

その後コロナ感染が広まり、子どもも長谷川司祭も罹患しました。そのためクリスマス・イブ礼拝と降誕日は信徒で守る準備を進めたところ、奇跡が起きて吉田主教様が青森に来てくださることに、皆さまのお恵みに一同深く感謝し大きな喜びに包まれました。思いがけないクリスマス・プレゼントでした。

### 大館聖パウロ教会

昨年大雪でしたが今年も寒さも特別！と言いつつ、礼拝を守っています。突風で隣の窓が見えないほど。水道は凍ってしまいました。

吹雪の中、幼稚園の子どもたちは仮園舎の庭に坂を作り、雪遊びに歓喜の声を上げ元気

いっぱいです。

「園の工事は急ピッチで進み、卒園式は新園舎でできる予定です」との園長の声に、嬉しくて皆で拍手をして喜びました。

変化の大きい大館のため、お祈りとお支えをよろしくお願いたします。

### 西の平聖パウロミッション

2023年11月の閉所を控え、伝道所での最後のクリスマス・イブ礼拝が行われました。八木司祭の「イエス様の誕生は、身分も人種も様々な人々と共に起きた、正に多様性の象徴のような出来事」との説教を伺い、2000年以上も前からの神の為せる業に改めて感動を覚えました。

多様性を認め合い、尊重できる世の中になると閉所が新たなスタートになるよう、信徒一同で願っています。

### 山形聖ペテロ教会

今年に入ってから、雪は少ないのですが寒さが厳しく、礼拝堂は暖まるのに時間がかかります。燃料費の値上がりも重なり、また牧師館管理の

面からも良いかと思われるため、冬期間、み言葉の礼拝は牧師館で家庭礼拝のように行うことにしました。

施設に入られる方、自宅療養される方も続き、礼拝に出席できる方が減りました。今年の冬は、牧師館で静かに心のこもった祈りを献げることになります。

### 福島聖ステパノ教会

近頃、教会を訪ねてくださる方々が、少し増えてきていると感じています。その多くは、やはり「NHK連続テレビ小説・エール」関連での見学なのですが、中には純粹に教会やキリスト教に興味があるといった方も以前より多くいらつしやるように思います。

あるいはこれは、今現在の世相を表したものであるのかもしれないですね。

いずれにしても、この福島の地にあつて、教会を必要とする人々にしっかりと開かれた教会でありたいと思っています。

### 常置委員会報告

(第4回・1月18日)

#### ◇主教報告

山形聖ペテロ教会と新庄聖マルコ教会・鶴岡聖公会の合併、盛岡聖公会と室根聖ナタナエル教会の合併、新庄聖マルコ教会・鶴岡聖公会の礼拝堂聖別解除を公示。

#### ◇常置委員長報告

旧鶴岡聖公会と旧新庄聖マルコ教会・旧新庄聖マルコ幼稚園舎の解体撤去について、積和建設東北株式会社と契約を締結。1回目の契約金等支払いを行った。

#### ◇協議事項

(1) 教役者人事異動について：4月1日付の教役者人事異動について、その内容を適当と認め教区主教に答申し、公示日を1月18日とした。

(2) 主教授手式・教区主教就任式の準備について：4月22日(土)10時からの主教授手式・教区主教就任式に向けて、実行委員会を設置。

委員長：赤坂有司常置委員長  
礼拝担当：八木正言司祭  
渡部拓司祭

総務：浅原和裕総務主事

赤坂聖矢氏

案内担当：梅津庸子氏

以上をメンバーとすることを承認。また各教会からの参列者は、原則2名までとすることを承認。

### 3月逝去者記念聖餐式

3月7日(火) 午前10時

於 主教座聖堂

司式 吉田 雅人 主教

説教 (未定)

司祭 ペテロ山本 秀治

司祭 ペテロ松坂 勝雄

司祭 パウロ村上 秀久

宣教師 Miss Flora M. Bristowe

司祭 1942年3月13日逝去

司祭 1970年3月15日逝去

司祭 1978年3月19日逝去

東日本大震災12周年記念の祈り、講演会は東北教区YouTubeチャンネルにてご覧いただけます。

